



# 子ども大学学生新聞

第31号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

## 平和や経済のために協力

### 柑本先生「EUと国境のない世界」

七月九日(土)、尚美学園大学北オーデトリウムで、実践女子大学人間社会学部教授の柑本英雄(こうじもと・ひで)先生が、「EUと国境のない世界」というテーマで授業をしました。出席者は四年生四〇人、五年生五五人、六年生三六人の計一三一人。柑本ゼミのお姉さんたち二人が授業を手伝いました。学生たちは、白紙に文字を書いたものを資源と考え、丸めて、みんなで投げ合ったり、EU各国の国民になったつもりで



首相・大統領や防衛大臣を決めたりしながら、EUの歴史やしきみについて、楽しみながら学ぶことができました。

EUとは「欧州連合」のことです。戦争をしたヨーロッパの国々が反省し、戦争をなくすために生まれました。その取り組みが評価され、ノーベル平和賞を受賞したそうです。

平和のため以外にも、複数の国々で資源を共有したり、国同士も自由に行き来できるようにしたり、お金も共通化したりして、みんなで豊かになろうと、さまざまな取り組みをしました。

EUができた理由は、いろんな国の人たちが、平和や経済のために協力しているとしたからです。

#### みんなで法案を話し合う

(築城将真記者 牛子小5年)  
二時間目は、学生がヨーロッパの各国の代表になり、EUの法案について議論しました。はじめに「二〇一六年八月一日より、EUは『ハチ公バスの歌』のメロディをEUの歌に制定する」という法

案です。これについて各国で賛成か反対か、意見をまとめるよう言われました。実際はEUの欧州理事会で各国が投票して決めますが、国の人口や経済力によつて投票数が決まっています。授業では、各国が話し合った結果を採決したところ、「反対」が多く、この法案は否決されました。

つぎに、EUのマスコットを「かわごえときお君」にする法案が出されました。すると、ドイツがもめていました。先生は「もめごとはよくあることです。もめてまともでないドイツを許すか、早くしろよと思うかが大事です」とおっしゃいました。各国の結論を教えた結果、この法案は否決されました。

三つ目の法案は、「EUの海の魚は、どこの国がとつてもよい」というものでした。EUをぬけたイギリスのまわりにある北海はタラがたくさんとれます。それをどの国もとつていいのか、と先生は問われました。結論は「賛成も反対も決めない」ということでした。

先生は「民主主義はすぐに多数決で決めるのではなく、みんなでたくさん話し合うことが大事です。賛成か反対か、その理由を話して結論を出すことです」と話されました。

最後にキティちゃんストラップが、おみやげに配られました。これは駐日欧州連合代表部から提供されたそうです。

(石井結衣記者 霞ヶ関南小6年)

#### ☆柑本先生にインタビュー!

Q なぜ紙を投げるような授業をやるのとおもったのですか?

A みんなにヨーロッパで起きた戦争とは何か、知ってほしかったからです。なぜ議論をさせたのですか?

A ものごとを決める民主主義のやり方を知ってほしかったからです。今日の授業でとても良かったのは、みなさんが話し合うことをあきらめなかったことです。大人になっても徹底的に話し合ってください。それが、自分と考え方の違う人を理解する方法です。

Q EUについて研究するようになったきっかけは何ですか?

A 知り合いにイギリスのマクミラン元首相の孫でストックトン伯爵という人がいます。その人とお昼ごはんを食べていたときに、イギリスのコーンウォール港の漁民がフランスのブリタニーやアイルランドの漁民と国際協力を開始したという話を聞いたからです。

(中島七虹記者 中央小6年、奈村晴冬記者 高階小5年)

#### ☆記者の授業感想

◇関根英瑠麻記者 古谷小6年  
EUには移動の自由があり、ユーロというEU共通のお金でお買い物もできる。学校も仕事も買い物もたくさん国の中から選べて良いなと思いました。

◇篠崎仙太郎記者 中央小6年  
ぼくは、はじめEUは少しよくないのかなんで思っていました。理由は、こないだイギリスがEUから抜けるというニュースを聞いたからです。ですが今回の授業を受けてEUっていいんだなと思えました。

# 体験を生かそう

## 高校生に「ものづくり」学ぶ

高校生が「先生」になって教える特別授業「ものづくり教室」が八月二十日(土)、川越工業高校でありました。募集定員は一〇〇人でしたが、七回目の今年は参加者が少なく六四人(四年生二人、五年生二十八人、六年生五人)でした。

九時四十分から開講式があり、学生を代表して石井結衣さん(霞ヶ関南小六年)が「今日学んだことを生かしてきたいです」とあい

さつしました。このあと五学科七講座に分かれて、午前と午後、別々の「ものづくり」を楽しみました。

### ☆デザイン科 **ハンカチのマージン**

**グ染め**  
トレーに液体のりを入れてアクリル絵の具を垂らし、棒で混ぜて好きな模様を描きます。ハンカチの四隅に竹の棒(しんし)を二本、交差させてピンと張り、トレーにつけて模様を染めます。それを水道で洗い、乾かして完



成です。【感想】難しそうでしたが、やったら意外に簡単でした。先生もやさしく教えてくださったので、よかったです。【高校生の先生に聞く】飯田紫さん「みんな、すごくセンスがあつて、私たちが上手じゃないかと感心しました」(土田莉子シニア記者||山田中2年)

【感想】難しい感じがしましたが、やったら意外に簡単でした。先生もやさしく教えてくださったので、よかったです。【高校生の先生に聞く】飯田紫さん「みんな、すごくセンスがあつて、私たちが上手じゃないかと感心しました」(土田莉子シニア記者||山田中2年)

### ☆化学科1 **リサイクル・エロジ！マグネットの製作**

材料は発泡スチロール、ペットボトルキャップ、ネオジウム磁石などです。作り方は、穴をあけたペットボトルのキャップに溶剤と発泡スチロールを溶かしたものを穴から注入します。次に磁石を入れてホットプレートで加熱したあと、氷水で冷やして完成です。

【感想】キャップに穴をあけるところや、溶解を上手くするところが難しかったです。化学のことを色々勉強できて楽しかったです。

### ☆化学科2 **七宝焼**

(増田夢美シニア記者||名細中1年)  
材料||ゆうや(ガラスの粉のような物)、銅板、道具||スパチュラ、ピンセット。作り方||①ゆうやの色を決める、②表面にゆうやをのせる(うすく一ミリぐらいあける)、③かんそうさせる、④でんきろで焼く。

【感想】一ミリあけるところや、うすくのせることがうまくできてうれしかったです。(奈村晴冬記者||高階小5年)

【感想】銅板に付けた色と、焼いたあとの色がちがっていて、びっくりしました。注意することが二つありました。①焼くオーブンに近よったり、さわったりしないこと、②銅にさわらないこと(手の油

がつくから)。だから、みんな、さわったり近よったりしませんでした。(秋山花那記者||鶴ヶ島二小5年)

### ☆化学科3 **藍染のハンカチ作り**

材料はハンカチ二枚と藍染液。最初にハンカチに輪ゴムや割りばしで防染をし、藍染液をかき混ぜて緑色になり、表面にあくができて、膜がはたらいたら染めができません。次にハンカチを水に浸して軽く絞り、藍染液に二分浸します。そのあとハンカチを取り出して軽くしぼり、広げて空気に触れさせます。ハンカチが青くなれば、ふたたび藍染液に二分浸します。最後にハンカチを取り出して軽くしぼり、防染をはずして広げ、空気に触れさせて水洗いし、乾燥させて出来上がりです。

【感想】模様を染め出すところが難しかったです。きれいな模様のオリジナルなハンカチが上手くできたから、大切に使うつもりです。(中島七虹記者||中央小6年)

### ☆建築科 **木製風鈴の製作**

木を好きな形や長さに切り、ドリルで穴をあけてヤスリでみがきました。穴に糸を通して木を木につるす作業が大変でした。けれど、木ならではの音をかなでることができ、自分だけの木製風鈴が作れたので良かったです。家の玄関やドアにかざりたいと思います。

### ☆機械科 **3Dプリンターによるネームプレートの製作**

(石井結衣記者||霞ヶ関南小6年)  
はじめにパソコンに自分の名前を入力しました。カーソルを動かすのが大変でした。あとはパソコンから送ったデータ(自分の名前)を3Dプリンターがネー

ムプレートをつくる。【感想】難しい感じがしましたが、やったら意外に簡単でした。先生もやさしく教えてくださったので、よかったです。【高校生の先生に聞く】飯田紫さん「みんな、すごくセンスがあつて、私たちが上手じゃないかと感心しました」(土田莉子シニア記者||山田中2年)



【感想】難しい感じがしましたが、やったら意外に簡単でした。先生もやさしく教えてくださったので、よかったです。【高校生の先生に聞く】飯田紫さん「みんな、すごくセンスがあつて、私たちが上手じゃないかと感心しました」(土田莉子シニア記者||山田中2年)

### ☆電気科 **LEDとジャンパー線**

(篠崎仙太郎記者||中央小6年)  
初めは、部品をつなぐジャンパー線という導線のようなものをニップで見本に合わせて切っていました。その後、ワイヤーストリッパーでジャンパー線の外装をはがしていき、ミニブレッドボードという台にジャンパー線やスイッチなどの部品をはめていきます。そして、電池とつないで完成です。

【感想】高校生の先生方が一つずついねいに教えてくださり、とても簡単に完成することが出来ました。ていこうを使っただけで、光る速度が変わったのが面白かったです。

【高校生の先生に聞く】3年生 藤原林さん  
Q 小学生に教えてみてどうでしたか?  
A 最近の子どもたちはみんな頭がよくて、すごいと思いました。

Q 教えるにあたって、たいへんだったことはありますか?  
A あきらめないように教えてあげることです。

(十重田妃菜シニア記者||福原中2年)